

平成27年度 第5回 四條畷市総合計画審議会 会議録

日 時	平成28年1月8日(金) 9:30~10:20
場 所	四條畷市役所 東別館 201会議室
出席者	石関委員(会長)、明神委員(副会長)、大川委員、小原委員、藤本委員、森本委員、渡辺委員、河野委員、清川委員、田中(一)委員、中野委員、林委員、榊井委員、田中(好)委員、宮園委員
欠席者	なし
事務局	森川副市長、開理事兼政策企画部長、田中総務部長、西尾市民生活部長、吐田都市整備部長、森本都市整備部参事、谷口健康福祉部長、高津健康・保険担当部長、北田上下水道局長、坂田教育部長、石田議会事務局長、板東企画調整課長、板谷企画調整課長代理兼主任
議 題	1 第6次四條畷市総合計画(案)における答申内容について 2 まちの将来像(2050年の夢)について 3 その他 4 閉会
配布資料	① 次第 ② 平成27年度第4回四條畷市総合計画審議会 会議録 ③ 第6次四條畷市総合計画(案)について(答申) ※答申(案)

(文中敬称略)

事務局	<p>1. 開 会</p> <p>それでは、定刻となりましたので、四條畷市総合計画審議会を開催いたします。</p> <p>本日の出席委員は15人です。四條畷市総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席があったことにより、会議が成立したことをご報告いたします。</p> <p>続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>1点が次第、2点が平成27年度第4回四條畷市総合計画審議会会議録、その他として、本日ご持参をお願いしております、第6次四條畷市総合計画（案）、第6次四條畷市総合計画策定のための中学生アンケート及び市民意識調査結果報告書並びに第5次四條畷市総合計画【後期計画】です。</p> <p>以上ですが、本日、お持ちでない委員はいらっしゃいますか。 (なし)</p> <p>なお、机上に配布しております、第4回の審議会会議録につきましては、会議録案を発送させていただいた後、12月25日までに変更等の申し出がなかったことから確定とさせていただきますので、ご報告申し上げます。</p> <p>では、会長、よろしく申し上げます。</p>
石関会長	<p>2. 議 事</p> <p>第6次四條畷市総合計画（案）における答申内容について</p> <p>それでは、第5回四條畷市総合計画審議会を開会します。</p> <p>本日は、次第1 第6次四條畷市総合計画（案）における答申内容をご審議いただき、その後、次第2 まちの将来像（2050年の夢）についてのご意見をうかがいたいと思います。</p> <p>11時を目途にすべての審議を終了し、その後、私と副会長とで市長宛に答申を提出することにいたしますので、進行へのご協力をお願いいたします。</p> <p>まず、第6次四條畷市総合計画（案）における答申内容について、事務局から答申（案）を配布してください。</p>
事務局	<p>(答申（案）を配布)</p>
石関会長	<p>では、事務局から答申内容を読み上げていただきます。</p>

事務局	<p>第6次四條畷市総合計画（案）についての答申案を読み上げます。</p> <p>平成27年8月28日付け畷政企第726号にて諮問いただいた第6次四條畷市総合計画（案）について、本日に至るまで5回の会議を開催し、専門的な見地及び将来を見据えた視点のもと慎重な審議を経て、総論的意見5点、各論的意見24点として答申を取りまとめました。</p> <p>この内容を十分に尊重のうえ、住民、行政連携による協働のまちづくりを形にする総合計画として策定されるよう要望します。</p> <p>なお、市政運営の長期的な目標に定めるべく、まちの将来像（2050年の夢）については、第6次四條畷市総合計画が終了年次を迎える2050年に50歳を迎える子どもたちの思いから、「自然と歴史を共だって 安らぎ ぬくもり 賑わいを育てよう 夢づくり都市 四條畷 ～すべては住みよいまちづくりのために～」の案を示されていますが、「・・・・・・・・（網掛け部分につきましては、後のご意見をいただきます）」との付帯意見を申し添えます。</p> <p>最後に、総合計画の推進にあたっては、本市の将来を担う子どもたちだけでなく、すべての方々の2050年の夢の実現に向け、着実に取り組まれるよう期待します。</p> <p>【総論的意見】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合計画はまちづくりの最上位計画であり、本市のあるべき姿と進むべき方向性を示す指針との認識に立ち、市民にわかりやすい内容とすべく表現を工夫すること。また、取組み内容については、あらゆる方策を用いて可視化に努めること。 2. 計画の推進にあたっては、人口ビジョンに掲げる本市の人口動態を的確に見極めながら、時宜を得た施策、事業を構築、実施すること。 3. 人口ビジョンの詳細を表す年齢構成をさらに分析のうえ、将来を見極めながら、市民の安心、安全な暮らしと福祉の増進を図ること。 4. 関西文化学術研究都市の構成市として、教育を中心としたまちづくりを進め、特に子どもたちへの学びに着眼した施策、事業を推進すること。 5. 総合計画策定後における実施計画の取りまとめとその実践に関しては、市民参画を経た枠組みで臨むこと。
-----	---

【各論的意見】

1. 基本計画 分野第2章「賑わいと魅力を創造し、まちを元気にする活力づくり」に関し、近居を全面に打ち出すのであれば、今後の方針や方向性を整理すること。
2. 基本計画に掲げる枠組みについて、方向性に問題はないが、個別の事業を実施する際、特に市民生活や子育て施策に関しては、周知、啓発に努めること。
3. まちのイメージアップに繋がる景観形成については、昨今、問題となっている空き家対策はもとより、自然環境の保全を含め取り組むこと。
4. ペットの飼育に関し、共生の考え方に基づく具体策を講じること。
5. 協働のまちづくり具現化をめざし、団体間の協働については行政が橋渡しを行うなどの枠組みを構築すること。
6. 住民自治を確立すべく、参画、協働の機会を適宜設けること。
7. 男女共同参画社会の実現に向け、まずは市役所で女性幹部職員の登用を進めること。
8. 農業振興の一助として、様々な場面での地場産品使用はもとより、農業従事者の育成を強化すること。
9. 雇用問題については、地方創生を前提に、新たな制度設計や社会背景を踏まえた取組みを行うこと。
10. 市民の円滑な交通を維持するため、コミュニティバスの運行に留まらない施策を検討すること。
11. 本市に育つ子どもたちの情操を養うため、公共施設の集約に併せて気軽に遊べる公園整備を計画的に含めること。
12. 情報化の進展に伴う負の側面への対処、対応は、地域ぐるみで進めること。
13. 人権尊重に向けた取組みについては、市民一人ひとりの命を大切にす意識醸成を基盤とすること。
14. 防災対策については、住宅の耐震化などのハード面と、自主防災、災害時要配慮者への支援体制といったソフト面の双方から働きかけること。また、そのための内外への情報発信は柔軟に対応すること。
15. 防犯対策については、事故の未然防止とやむなく発生した際の事実確認を併せ持つ対策を講じること。
16. 福祉は受益者だけでなく、提供者側への支援等を併せて検

	<p>討すること。</p> <p>17. 福祉全般については、単に事業を進めるだけでなく、事業効果を補完していく受け皿的な仕組みを行政、地域協働で築くこと。</p> <p>18. 住民の定住化を果たすべく子育て世帯に着眼した画一的でない取組みを設けること。</p> <p>19. 子育て支援については、産み育てやすい環境という成果を求め、施策、事業を展開していくこと。</p> <p>20. 貧困の連鎖に着眼した側面的、横断的な取組みを検討し、具現化していくこと。</p> <p>21. 時代を担う子どもたちの育ちを応援するため、年齢階層ごと適宜の取組みを枠組むこと。</p> <p>22. 近々に実施していく予定の学校再編整備には、引き続きの住民合意に向けた努力を重ねること。</p> <p>23. 計画推進にあたっての効果を最大限に発揮するとの考えのもと、類似事業の統合、整理を進めること。</p> <p>24. 人口流入及び定住施策については、先進事例等を参考に積極的な取組みを取り入れること。</p> <p>以上です。</p> <p>石関会長 この本答申（案）は、事務局と私と副会長とで事前に協議を行い、これまでの審議会で皆さんからいただいたご意見を、総論的意見5点、各論的意見24点に取りまとめたものです。</p> <p> なお、答申には第4回までの議事録を付けてすべてを市長に提出いたしますので、計画内容の修正如何に関わらず、今後の市政運営全般への参考としていただけるものと考えております。</p> <p> この内容で答申としたいと考えておりますが、皆様、いかがでしょうか。ご意見や文言の修正等がございましたら、お願いいたします。</p> <p>森本委員 前にも議論があった、「共だって」という文言を使うのですか。</p> <p>石関会長 それは次第2で議論します。</p> <p>小原委員 これまでの議論の内容をコンパクトに的確にまとめられていると思いますので、結構です。</p>
--	---

石関会長	<p>ありがとうございます。 他にご意見はございませんか。 (意見等なし) では、次第2に移らせていただきます。</p>
石関会長	<p>(2) まちの将来像(2050年の夢)について 次第2「まちの将来像(2050年の夢)」について、ご意見のある方はお願いします。</p>
事務局	<p>例の「共だって」の部分について、代案はありますか。 過去の議論の中で事務局から申し上げた通りですが、基本的に、2050年に50歳になる昨年の中学2年生に意見を聞いてまとめたという経過がありますので、事務局としては現状の内容で進めたいと思っています。 ただ、この場でご議論いただきまして、総意として代案をいただけるようでしたら、それについては最大限に尊重しながら市長に申し入れをさせていただきたいと考えております。</p>
石関会長	<p>「共だって」の部分について、代案のご提示はございませんか。</p>
小原委員	<p>「共だって」という文言は、文法的に正しいのかどうか調べられたのでしょうか。</p>
事務局	<p>厳密には文法的に該当する言葉はありませんが、例えば、口語的な文章であれば使われているケースは多々あると把握しています。ホームページやインターネットでこの文言を入れると、いくつか使われている例が検索されました。それで、使っている内容を吟味しますと、やはり従属的につながっているのではなく、隣にいる、一緒に進んで行くという意味で使っている例が多々あると理解しています。</p>
大川委員	<p>私の孫も中学1年生なので、「共だって」という意味が分かるかどうか聞いたところ、あまり知らないようでした。しかし、「共だって」という文言を色々な形で議論することによって、総合計画の内容を深めていくという点では、私はこのままで良いのではないかと思います。</p>

藤本委員	<p>今回の標語に関して、他市ではどのようなことが書かれているのかと思い、大阪府の他市の標語を調べてみましたが、他市では分かりやすい言葉で書かれており、その標語を見た時に、そこがどのようなまちなのがすぐに浮かぶような標語になっています。</p> <p>例えば、交野市は、「水と緑が暮らし彩る『星のまち☆かたの』』という将来像を掲げていますが、星のブランコなど、市のイメージとして星を全面に出しており、それを標語に入れています。</p> <p>また、観光スポットとして川を遊べる場所として工夫しており、それによって、「水と緑が暮らし彩る」というイメージで市がすぐに思い浮かぶよう、分かりやすい標語になっています。</p> <p>このように他市の標語をみますと、年齢を問わず分かりやすい言葉が使われています。それに対し、第1回の審議会で、「共だって」という言葉はどうかという議論がありましたが、私としては、「共に」という言葉の方が分かりやすいのではないかと思います。</p>
石関会長	<p>他にご意見はございますか。</p>
中野委員	<p>以前から「共だって」という言葉が議論されているので、私もホームページ等で拾ってみたのですが、「共だって」で検索すると、この四條畷市総合計画が3番、4番に出てきます。3番に総合計画（案）が出てきて、4番で総合計画（原案）が出てきますので、特殊な使い方であることは間違いありません。</p> <p>「共に」と「だって」は別々に使われることが多く、違う意味があるようですが、それを重ねているわけです。先ほども事務局が言われたように、「人を伴う」という意味で使われる例もあるにはあるのですが、かなり特殊だと思います。それを、自然と歴史という人ではないものに使うので、イメージ的に余計に分かり難くなっているのではないかと思います。</p> <p>我々高齢者が「共だって」を聞くと、思い至るところがありますが、事務局が言われたように、若い人も発想するのか、また、中学生からこの言葉が出てきたというのもイメージが湧きません。その点で無理があるような気がします。</p> <p>先ほど言われたように、まちのイメージがこのキャッチフレーズで浮かぶかどうかと考えると、四條畷というイメージは湧かないと思います。そうなると、全部の言葉を変えなければならなく</p>

森本委員	<p>なるので、その点も含めて考えていただいた方が良いのではないかと思います。</p> <p>事務局は変えるつもりはないようですので、提案としてこの標語自体を市民から公募してみてもどうでしょうか。</p>
事務局	<p>まず、中野委員からいただいたご意見について、子どもたちの方からこの言葉が出てきたのではなくて、子どもたちに、まちの将来像についてのイメージを出してもらい、それらの意見を受けて事務局で考えた次第です。</p> <p>もう1点、変えるつもりがないわけではなくて、あくまでも事務局としては責任をもってご提示しましたので、これについてご議論いただきたいと考えており、審議会の総意として一定の方針をいただきましたら最大限尊重するという事です。</p> <p>また、将来像を公募するというご提案については、これまで積み上げてきた検討過程がありますので、考えていません。</p>
石関会長	<p>「共に」とするか、「共だつて」を残すか、変えるかという意見が出ましたが、前回までの段階で私もホームページ等を調べ、その中で、スローライフまちづくり全国都市会議という地方都市が行っている会議で作られた、スローライフ憲章というのを知りました。</p> <p>その中では、郷土の自然と豊かな歴史を慈しむとともにという風に、「慈しむ」という言葉が使われていましたが、これは公式文書として出ているもので、「慈しむ」という言葉が分かりやすいので、このような柔らかい表現にする方法もあるのではないかと思います、それも考慮に入れていただければと考えます。</p>
小原委員	<p>先ほど藤本委員から、「共に」という意見が出されましたが、私は「自然と歴史と共生で」という言葉が良いのではないかと考えていました。ただ、その場合、「自然と共生」というのは意味が通じますが、「歴史と共生」というのは意味が通じ難いように思われます。そこで、「共に」という言葉が良いのではないかと考えましたが、ただ今ご提案がありました、「慈しむ」という言葉の方が、全体の流れを見た場合に非常に柔らかくて、温もりのある標語になると思いますので、大賛成です。</p>

石関会長	ありがとうございます。他にご意見はございませんか。
大川委員	確かに、他所でも使われているという話もありましたが、四條畷は四條畷らしい文言という点で考えますと、「共だって」という言葉も決して悪くないのではないかと思います。これを含めて、市民が、これは何なのかと質問する中で意味が深まっていくことを考えた場合、2050年までという長い歴史を考えて進めていくわけですから、その歴史の中で具体的に理解してくれるのではないかと思います。
石関会長	他にご意見等はございますか。 「共だって」という言葉を残して、これらの意見を付帯意見として付ける形で答申とするのは可能なのでしょうか。
事務局	先ほど読み上げた答申（案）に網掛けをしていましたが、この部分は、これまでの経過から当然ご意見をいただけるものと理解しておりましたので、本日の議論を経て、この場で入れさせていただきます。また、審議会として総意のご意見をいただけるようであれば、それは当然、答申案として鑑文に加えますので、重きを置いてまいりたいと考えています。したがって、市の方も絶対にこの言葉を変えないというような意識では臨んでいません。
石関会長	つまり、付帯意見として今の意見を入れるということで良いのでしょうか。
事務局	はい。ただ、複数を挙げて選択肢を設けられるのは答申（案）としてまとめ難くなりますので、1～2点程度であれば良いと思います。
石関会長	1～2点ということですが、今出ている意見は、「共に」と私が提案した「慈しむ」という2案ですので、その2案ではどうでしょうか。
事務局	審議会として、その2案で提出されたいということであれば、記載させていただきたいと考えます。

石関会長	<p>今、事務局からご意見をいただきましたように、「共に」、「慈しむ」という言葉を付帯意見として入れるかどうか、皆様からご意見をいただきたいと思います。どちらか1つ、あるいは2つ、または入れないという選択肢があると思いますが、それに関してご意見はございますか。</p>
清川委員	<p>付帯意見として2つ入れていただけるということですが、標語自体は、「共だって」という言葉で決まるということでしょうか。</p>
事務局	<p>将来像については、総合計画（案）として現在のものを提示させていただきましたが、当然、審議会という最終の最高位の場合での議論によって提案がいただけるのであれば、最大限尊重しながら市長が最終案を判断することになります。場合によっては、先ほどいただいた何点かの案に変わるかもしれません。</p>
渡辺委員	<p>確かに、積み上げ方式で作ってきたので大きく変える必要はないと思います。ただ、その中で、「共だって」の部分は「慈しむ」の方が良いかと思えますし、かつ、「自然と歴史」という前段については、子ども部会の意見でも「自然」や「歴史」という言葉が多く発言されており、四條畷市の特徴として「自然と歴史」ははずせないと思います。</p> <p>一方、藤本委員から話があったように、交野市は星を売りにして星を付けたゆるキャラを出す等、ブランディングが統一されていると思いますが、そういう中で、四條畷市の場合、「自然と歴史」は良いとしても、「安らぎ めくもり 賑わい」、「夢づくり都市」というのはどこの市にも当てはまるように思います。</p> <p>そこで、この総合計画審議会の中で、私も他の委員の方も発言したと思えますし、かつ、そういうことが反映されて、答申（案）の総論的意見の4番に、「関西文化学術研究都市の構成市として、教育を中心としたまちづくりを進め」とまとめられたと思いますが、皆さんの中で、「教育に力を入れた都市をめざしていこう」というコンセンサスは取れていると思うので、「夢づくり都市 四條畷」を「学研都市 四條畷」に変えられないかと思っています。</p>
石関会長	<p>今の件に関して、事務局はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>「夢づくり都市」というのは、今回、策定方針を設けた時に、</p>

	<p>2050年という長期であることと、かつ、第5次総合計画でも「夢と希望」を掲げていましたので、「夢」を大事にしようと考えました。会議についても、「夢づくり会議」を設けて積み上げてきた経過がありますので、将来像についてもその過程を大切にしたいということで、「夢づくり都市」としたわけです。</p> <p>渡辺委員のご意見は、この審議に止まらず、従前から学研都市のPRということで聞いておりましたし、かつ、この場でもご発言いただきましたので、総論的意見の中に明示させていただいたという経過があります。ただ、それを将来像に入れるかどうかについては、ご意見としては賜りますが、我々からすれば、「夢づくり会議」を設けて進めてきた経過があり、「夢づくり」という言葉を残したいという思いがあります。</p> <p>「夢づくり会議」というのは、あくまで行政が設定した会議の名称でしかないと思うので、「夢づくり会議」があるからまちの将来像に「夢づくり」を入れなければならないという論理は成り立たないと思います。</p> <p>今後、他の市町との比較の中で、選んでもらえるまちをめざすのであれば、他市との差別化を図らなければなりません。そういう状況の中で、抽象的な言葉を並べるのは、そもそも四條畷市自体をブランディングしていく気がないのかと思ってしまいます。もちろん、「学研都市」だけが正解とは思っていませんが、やはり、皆さんでしっかりと考えていくべきことではないかと思えます。</p>
渡辺委員	<p>大阪の人は四條畷市と聞いて分かりますが、地方の人は、大阪府が付かなればどこなのか分からないと思います。そういう意味では、確かに、「夢づくり」でも良いかもしれませんが、市のイメージアップのためには、ぜひとも、「学研都市」のようなアピールできるもの、それがここにあるということが日本中、世界中に分かるようなものを入れる必要があると思います。それによってイメージアップを図ることが、今後の四條畷市のプラスになると思います。</p>
河野委員	
石関会長	<p>他にご意見、ご賛同等はございますか。</p>
中野委員	<p>流れを見ると、自然と歴史があって、安らぎ、ぬくもりがあっ</p>

	<p>て、夢づくりがありますが、最後に「都市」が付くと、言葉の流れとしては浮き上がってしまい、自然と歴史が薄れてしまうように思います。</p> <p>以前、子ども夢づくり会議で、「ふるさと」としてのまちを思い描いている子どもが多かったように思われますので、その辺りで、「都市」という文言を、「ふるさと」のような文言に変えると、もう少しニュアンス的に流れが良くなるのではないかと思います。</p> <p>「都市」と言われると、渡辺委員が言われたように「学研都市」等のイメージの方が合います。「夢づくり」を「都市」とつなぐと、イメージが湧いてこないような気がします。</p>
林委員	<p>「共だって」という言葉自体は使い続けるとイメージが定着するのではないかという思いもありますし、正しくないなら定着し難いかもしれないので、今の時点ではどちらが良いかという判断ができません。</p> <p>ただ、以前にいただいた資料で、第3次総合計画以降の将来像の標語では、「緑と歴史をいかすまち」や「いかした」という表現をずっと使われてきたようですが、同じ表現を使わなかったのは何か理由があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>子ども部会で将来のまちのイメージを語ってもらったのですが、その中で、現在の自然や歴史を活用してまちづくりに反映していこうという意見よりも、このままの状況を次の世代に引き渡し、同じ空間を味わってもらいたいという意見が多かったので、「いかす」というよりは、「連れだって」「共だって」というイメージで記載したという状況です。</p>
森本委員	<p>最初は「共だって」を友だちというイメージで考えられたのかと感じました。自然と歴史を友だちにしたような温かいまちというイメージで捉えたわけであり、それならまだ分からなくもありません。</p> <p>私は文学部を出ていますので、やはり市の冠になるものに文法的に正しくないものを入れるのは、あまり好ましくないと思います。これは、「僕たち、私たちは」が主語になると思いますが、それでも文法が滅茶苦茶です。動詞にするしかないと思いますが、それでは「共だって」という動詞があるのかというと、あり</p>

	<p>ません。「友だちにして」とか、「共に歩いて」等、分かりやすい、普通にある日本語であれば作ろうとしている意味は分かるので、その点を考えていただければと思います。</p> <p>それから、本日中に代案を出すため時間がないというのであれば、私は会長が言われた言葉に賛成です。</p>
石関会長	<p>ありがとうございます。やはり標語なので、私も文法に関しては、もう一度確認を取りたいと思います。「共だって」という言葉は文法的に正しいのでしょうか。</p>
事務局	<p>文法と言われますと判断が難しいのですが、まず、必ずしも将来像を主語、述語、目的語として統一感を持って表現するべきなのかという議論があるのではないかと思います。例えば、「～と～が語る」という表現がありますが、物と物が語るわけではないので、実際にそれが文法的に正しいかどうかは議論があると思います。したがって、そこにあまりこだわっていないのは事実です。ただ、森本委員のご指摘も理解するところではあります。</p> <p>それから、森本委員のご発言にありましたように、近い存在でありたいというのがありましたので、「共だって」という言葉を入れさせていただきました。「自然と歴史に包まれて」というイメージでも近いのではないかと思います。合意を図っていませんので、あくまでも私見です。</p>
石関会長	<p>いくつかご意見をいただきましたが、付帯意見として付けるものは2つでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>先の議論であれば、そういう話になったかと思いますが、渡辺委員からも一定意見をいただきましたし、中野委員からもご意見をいただきましたので、それらを文章化しなければならないのではないかと考えています。</p>
石関会長	<p>この場で全体的に文章化するということですか。</p>
事務局	<p>この文書に関して、もう少しご議論いただきまして、それを受けて事務局で案を出させていただきたいと思います。</p>
石関会長	<p>つまり、もう少し議論を続けて、その流れで文章化するという</p>

事務局	<p>ことですか。</p> <p>はい。</p>
石関会長	<p>それでは、他にご意見はございますか。特に、前半の「共だつて」の部分についてはいくつかのご意見をいただきましたが、渡辺委員からの「学研都市」や、その他にも、「ふるさと」という案が出ていますので、それらについてご意見がございましたらお願いいたします。</p>
明神副会長	<p>昨今は都市や市町村に外国からの来訪者も多く、情勢を聞きに来られる等、訪問される機会が増えています。したがって、新しいテーマを作られる場合は、英訳した時に変換できる言葉にしておくことも必要だと思います。「共だつて」という言葉が悪いというわけではありませんが、地方都市が新しいテーマを作る時は、「慈しむ」のように、すぐに英訳できるようなオールマイティな言葉を選んでいるという例がいくつかあります。</p> <p>日本独自の文化もありますので、日本語をすべて英語にするのは難しいかもしれませんが、これから四條畷市も国際化していくと外国の方が来られると思いますし、その時に、例えば、市のテーマについて説明することになれば、よりインターナショナルな言葉の方が良いのではないのでしょうか。そうなりますと、「共だつて」という言葉が悪いということではなくても、より多くの人に理解していただけるような言葉の方が良いのではないかと感じます。もちろん、特に外国の方を対象にするわけではありませんが、強いて言えば、四條畷市民一人ひとりの気持ちとして、誰にでも分かっていたることが最も大切ではないかと思えます。</p> <p>ですから、最後に皆さんがテーマにこだわっているのは本当に大切なことだと思いますし、皆さんの忌憚のない意見の中で決められると良いと思います。ただ、誰にでも分かる言葉というのは絶対的なものはないと思いますが、よりそういう効力的な部分で分かりやすい言葉を選ぶべきではないかと思っています。</p> <p>そういう意味では、「共に」とか「慈しむ」という言葉は英訳しやすいのではないかと思いますし、それでも、思いは十分に伝わると思えます。</p>

石関会長	<p>アバウトな議論を重ねても仕方がないと思いますので、一字一句決めていった方が良いでしょうか。</p> <p>例えば、「自然と歴史」は残して、その後の「共だって」を「共に」にするか「慈しむ」にするということで代案を1つ出す方が審議会の答申としては良いということでしょうか。</p>
事務局	<p>基本的には、それが一番望ましいと思いますが、ご意見をうかがっていますと、それぞれ見解や視点が違います。私としては、文章化して、それを総合的にまとめてはどうかと思います。</p>
石関会長	<p>文章化するというのは、どういうことでしょうか。</p>
事務局	<p>今のご意見をまとめますと、文章化の中身として、「自然と歴史を共だって 安らぎ ぬくもり 賑わいを育てよう 夢づくり都市 四條畷 ～すべては住みよいまちづくりのために～」の案が示されていますが、まず、「共だって」という文言は、より分かりやすく、浸透しやすくという観点から、例えば、「共に」や「慈しむ」等を活用してはどうか、また、「夢づくり都市」については、まちのイメージアップやブランディングの観点から、「学研都市」や、柔らかさを加えた「ふるさと」等に変更しても差異はないとの付帯意見を申し添えます。という内容はどうかでしょうか。</p>
石関会長	<p>今の事務局の提案はいかがでしょうか。私としては、皆さんの意見を反映するというので、この内容で提出したいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
大川委員	<p>事務局の提案で答申を出し、いずれにしても最終的には市長が決定するわけですし、また、市長には市長の思いもあるかも知れませんが、ここで出た意見としては、先ほどの内容で出すのが良いのではないかと思います。</p>
石関会長	<p>ありがとうございます。他に、どなたかご意見はございますか。</p>
小原委員	<p>先ほど、中野委員から「夢づくり都市」のように「都市」を使うことによって、歴史や自然が薄まってしまうという意見がありました。私も同意見です。「学研都市」という提案もありまし</p>

	<p>たが、「学研都市」にすると四條畷市のまち全体のイメージ像を狭めてしまうような気がします。</p> <p>そういう観点から考えますと、「夢づくり都市」ではなく「夢づくりのまち」でも良いのではないかと思います。「まち」は「街」の意味ですが、敢えて平仮名の「まち」にしたいと思います。</p>
石関会長	<p>今の意見も付け加えていただいて、よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほど私が読み上げた文章をベースにするということによろしいでしょうか。</p>
石関会長	<p>そうですね。特にご異論等はないようですので、まちの将来像（2050年の夢）については、総合計画審議会から出された今の意見で検討していただくよう、これを付帯意見とします。</p> <p>では、これをもちまして、次第2の審議を終了いたします。</p>
石関会長	<p>3. その他</p> <p>その他として、事務局から何かございますか。</p>
事務局	<p>今回の第6次総合計画の策定にあたりまして、計画書の中に審議会委員の皆様の名簿を掲載したく思っておりますが、ご了解いただけますでしょうか。</p>
石関会長	<p>ただ今、事務局から審議会委員名簿を掲載するという提案がありました。いかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>(異議なし)</p>
石関会長	<p>それでは、審議会委員の名簿掲載については、事務局の提案どおりにいたします。</p> <p>最後に、行政を代表して、副市長から一言お願いいたします。</p>
森川副市長	<p>第6次総合計画の答申にあたりまして、一言お礼を申し上げます。</p> <p>昨年8月に第6次総合計画の案を諮問させていただきまして、おかげをもちまして本日、審議終了し、厚く御礼申し上げます。</p> <p>審議会では、委員の皆様が中学生アンケート並びに市民意識調</p>

<p>石関会長</p>	<p>査の結果、さらには、2050年夢づくり会議からの基本構想、基本計画の案を念頭に置かれ、様々な視点から政策提言をいただきました。</p> <p>平成28年4月から第6次総合計画がスタートするわけですが、ここでの議論を決して机上のものにとせず、まちづくりの実践のために可視化、有形化を図っていく所存でございますので、皆様におかれましては、今後も市政運営にさらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>最後になりますが、皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げます、簡単ではございますが、お礼の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。それでは、ただ今をもちまして、第5回四條畷市総合計画審議会を終了し、私と副会長の任を解かせていただきます。皆様、ご協力ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画審議会委員の皆様には、5回にわたる慎重な審議をいただき、誠にありがとうございました。本日をもちまして、委員の皆様のご職を解かせていただき、総合計画審議会を終了させていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>